


令和3年度  
第25期ふるさとひょうご創生塾

子ども・若者（青少年）を取り巻く課題  
～居場所の必要性～

 (NPO) Kobe Youth Net TSUJI  
人と人をつなぐ！ 人が人をつなぐ！  
～青少年とともに、個から集団へ～

## おはなしのながれ…

- 自己紹介・活動紹介
- いきた体験活動とは… 生きる力
- 居場所づくり ～活動が居場所となる～
- ユースワークとは
- 生きる力 生き抜く力 そして…
- まとめ（課題の抽出・思い考え）

2

辻 幸志 (TSUJI Koji) つじっち



子ども会（会員）⇒ リーダー活動 ⇒ 青少年活動  
⇒ 青少年施設職員・青少年育成・支援活動 ⇒ ユースワーカー

こうべユースネット理事長  
神戸市青少年会館 館長  
ユースステーション兵庫・長田 施設長  
居場所づくり総括コーディネーター  
学習支援総括コーディネーター

3

## NPO法人こうべユースネットについて

神戸を代表する青少年団体が核となり設立された  
特定非営利活動法人(NPO法人)

HP⇒<http://www.kobe-youthnet.jp/>

### ■ 当法人のミッション【使命】

人それぞれの個性を認め合い、共に生きる社会の実現を目指し  
青少年が社会との関わりを自覚しながら、自立・自己実現できるように  
支援していくこと。

4

## 活動の重点目標

### 「第4期5ヶ年計画 2018～2022年度」

『子ども・若者(青少年)が自立・自己実現・社会参加のできる場づくりを推進すること』

#### ◆重点目標

- ①人と人、人と社会をつなぐ青少年の**居場所づくり**を推進します。
- ②青少年の**「生きる力」**を育む場づくりとしての体験活動を推進します。
- ③今日的な課題をかかえる青少年の支援を推進します。
- ④地域社会と連携した事業を推進します。
- ⑤青少年の育成に関わる専門職の養成を推進します。

5

## 施設運営

令和3年7月1日に三宮からハーバーランドに移転しました！



神戸市青少年会館



洞川教育キャンプ場



ユースステーション兵庫



ユースステーション長田



ユースプラザKOBE・WEST



尼崎市立ユース交流センター・4団体JV

6

### 特定非営利活動に係る事業

- ①青少年の健全育成に係る野外活動、講習会の開催
- ②青少年活動や地域活動に必要な指導者の育成及び講師の派遣事業
- ③青少年の国際交流事業及び支援事業
- ④青少年活動団体や未組織青少年に対する交流・情報の提供
- ⑤青少年施設及び野外活動施設の運営管理
- ⑥子ども・若者の自己実現、社会参加を推進する事業
- ⑦子ども・若者の居場所づくり事業及び子育て支援事業
- ⑧若者の自立・就労支援事業及びキャリアプラン推進事業

### その他の事業

- ①青少年施設の自主運営
- ②その他物品販売事業等



(スライドショー)

「こうベユースネットの活動をご覧ください」

8

## いきた体験（経験）…

### ■ 事業（体験活動の場）を通じて思うこと

青少年の「生きる力」を育む場づくりとしての体験活動を推進

- ・ 自然体験活動を通じて、自然を愛する心を育んでいく体験事業
- ・ キャンプ活動を通じて、仲間づくりや生活の自立にチャレンジする体験事業
- ・ グループワークを通じて、社会適応力を養う体験事業
- ・ 集団活動を通じて人や社会との関わり方を学び、「社会性」を養う体験事業

9



【実施目的・ねらい】  
夏休み事業（自然体験プログラム）として小学校高学年の児童をメイン対象者として、南の島での生活を体験し、都市部で感じることでできない大自然を五感で感じるプログラムを提供し、「生きる力」を育てることを目的に実施します。

また、横のつながり（同世代のつきあい）だけになりがちな小学生（対象者）に縦のつながり（他世代交流・世代間協働）の大切さや島民との交流プログラムを通じて協調性や人と人とのつながりの大切さを学ぶきっかけづくりを目的に実施します。

仲間とともに過ごす6日間の体験を通して、様々な発見そして友の発見を…

10

## 生きる力とは…

「いかに社会が変化しようとも、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの自己教育力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を育むこと」とされています。

【参考】1996年に文部省（現在の文部科学省）の中央教育審議会（中教審）が「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という諮問に対する第1次答申の中で、生きる力について述べたことから、教育の新たな目的の一つとして上げられるようになった。

11

## すべてにつながる居場所づくり

青少年育成事業

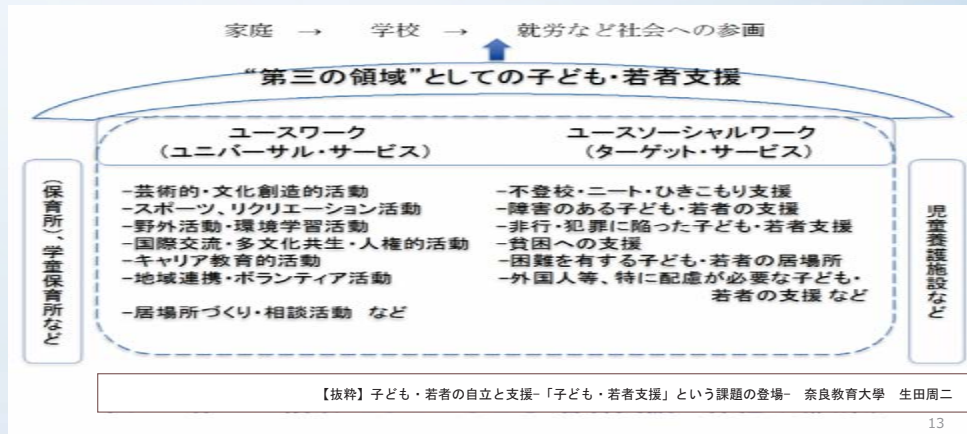
ユースワーク = ユニバーサル・サービス

青少年支援事業

青少年福祉・ユースソーシャルワーク = ターゲット・サービス

12

- ・ユニバーサル・サービス  
すべての子ども・若者の主体性・自発性を大切に、活動や参画の機会の拡充を図る青少年育成的な「ユースワーク(youth work)」
- ・ターゲット・サービス  
不登校、ひきこもり、就労不安など社会から排除されがちな子ども・若者を対象とする青少年福祉的な「ユースソーシャルワーク(youth social work)」



## 居場所づくりについて【コンセプト】

家庭【家】 第1の居場所（ファーストプレイス）  
学校【職場】 第2の居場所（セカンドプレイス）

参考文献  
レイ・オルデンバーグ  
忠平美幸訳  
「サードプレイス」

『**第3の居場所（サードプレイス）**』 = 心の居場所づくり  
とびきり居心地よい場所（The Great Good Place）

「顔の見える関係づくり」「人と人とのつながり(社会的兄妹)」  
青少年が様々な体験や周囲の人(多世代)とのコミュニケーションを通じて  
大人になるための準備をするところ(心豊かな人間関係づくり)

**スペース ≤ 人（ユースワーク） =**

## 地域における青少年の居場所とは・・・

「大人・社会から見た居場所づくり」と

「青少年の存在欲求に寄り添う居場所づくり」

## 地域における青少年の居場所とは・・・

「他者とのナナメの関係」

「行ける時に行ければいいやん」を

緩く受けとめる場と人

## ユースワークとは…

「ユースワーク」は、青少年が楽しさと挑戦と学びを結びつけた非形式的な教育的活動を通して、自分自身や他者について、社会全体について学ぶことを手助けすること。

【引用】NPO法人こうべユースネット勉強会「日本におけるユースワーク」資料P3 - フリップNo.9

ユースワーカー協議会代表（公益財団法人京都市ユースサービス協会）水野篤夫

社会教育の領域において、青少年と社会の間に立ち、時には友人や先輩として寄り添い、時には支援者として向き合うなど、個々の青少年によって様々な役割を担い、青少年が子どもから大人へと成長していく過程を支えるユースワーカーの存在は、これからの青少年育成支援事業に必要な能力と考えます。前述した内容に沿い、「ユースワーク」に必要な「価値観・目標感」と「専門的力量」について記載し、この整理された観点を大切に「ユースワーカー」として、事業に取り組みます。

17

## ユースワークの価値観・目標観

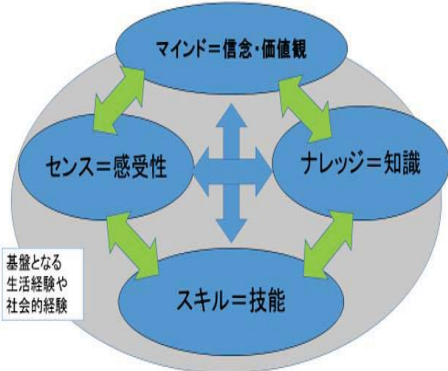
	基本的な価値観	ワークの目標	ユースワークは以下のことを大事なものとす
1	個々の青少年の固有性を価値あるものとしてとらえる	個々の青少年の持つ力を尊重しながら、それが引き出されるようにする	青少年が本来持つ力を大事にして、それが引き出されるよう働きかけていく 先入観に囚われず、公平な視点を持って青少年を受け入れ 青少年と関わる
2	信頼関係づくりから始める	青少年との間に信頼と共感という基盤を形成する	青少年と同じ時間や場、活動を共に過ごすことでつくれる信頼関係から始める 青少年の求めるものや世界観を前提としながら、ワークを組み立てる
3	青少年の自己決定を尊重する	青少年の選択肢を増やし、自己決定の能力を培う	青少年にとっての選択肢を増やし、自己決定できる機会を保障する 青少年が自らの選択や判断の前提をふりかえることが出来る機会を保障する
4	他者との関わりと、集団の中での学びのプロセスを大事なものとす	青少年が社会の中で生きていく力を身につけていけるようにする	青少年が他者や集団（グループ）とつながり、対人関係の中で生き方を学んでいくことを促す 体験を通して、認知的・非認知的な能力を伸ばしていくよう促す
5	すべての青少年への機会と場を保障できるようにする	すべての青少年への学びと成長のための機会と場を保障する	青少年が安心でき、チャレンジを許容する活動の場や機会が、平等に開かれているようにする 多様な興味な青少年の思いやニーズに応えることができる場を、すべての青少年に対して開く
6	青少年が所属するコミュニティや社会全体の正規の一員として位置づけられる	青少年を受け容れるコミュニティをつくる	青少年が理解され、その思いが伝わりやすいコミュニティができるよう働きかける 特に地域コミュニティにおいて、青少年が意思決定に参画する機会を保障する

18

## ユースワークの4つの能力

ワーカーの専門的力量

個人的能力としての側面



【出典】ユースワークって何だろう！？

12の事例から考える～

発行者：奈良教育大学

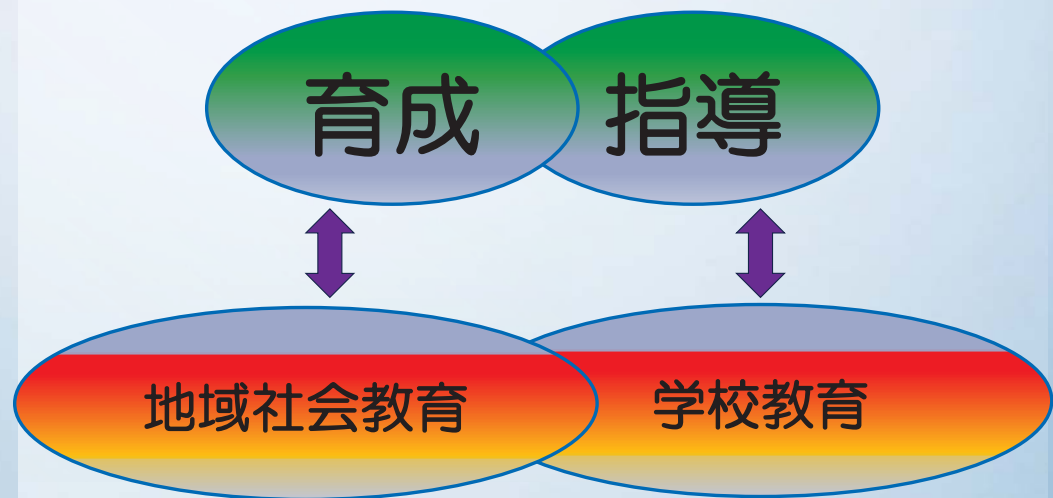
次世代教員養成センター

子ども・若者支援専門職養成研究所

代表 生田周二

編集：ユースワーカー協議会

19



20

## 生きる力 生き抜く力 そして…

知、徳、体、これらをバランスよく育むことが  
重要であると考える。

「知」は、「確かな学力」

「徳」は、「豊かな人間性」

「体」は、「健康・体力」

21

## 生きる力 生き抜く力 そして…

生き抜く力

コロナ禍

↓  
厳しい挑戦の時代に未来を切り開いていく力を  
身に付けること

ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子どもたちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要であるという視点。

【参考】1996年に文部省（現在の文部科学省）の中央教育審議会（中教審）が「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という諮問に対する第1次答申の中で、生きる力について述べたことから、教育の新たな目的の一つとして上げられるようになった。

22

## 生きる力 生き抜く力 そして…

何を教えるかという知識の質や量の改善はもちろんのこと  
どのように学ぶかという、学びの質や深まりを重視することが必要  
課題の発見と解決に向けて**主体的・協働的に学ぶ**  
(アクティブ・ラーニング)

厳しい挑戦の時代を**生き抜く**ためには、知識偏重・知識伝達ではなく、  
**学ぶことと社会とのつながりを意識した教育**を充実しなければならない。

【出典】

ウェブページのタイトル：文部科学省 学校・家庭・地域が力をあわせ、社会全体で、子どもたちの「生きる力」を  
はぐくむために～ 新学習指導要領 スタート～（保護者用パンフレット詳細版）

URL：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/pamphlet/icsFiles/afieldfile/2011/07/26/1234786\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/icsFiles/afieldfile/2011/07/26/1234786_1.pdf)

最終アクセスの年月日：2021年3月8日閲覧

23

## 生きる力

生き抜く力

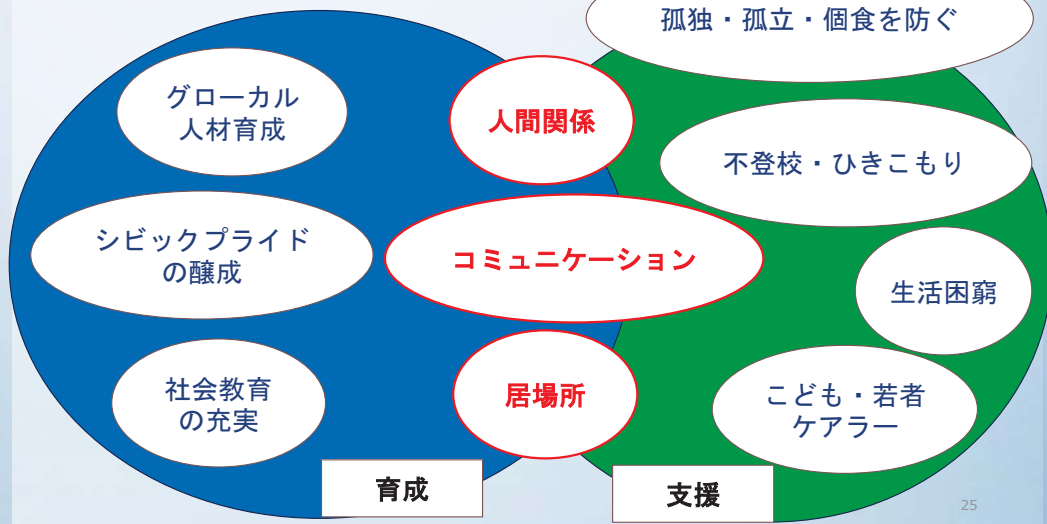
困難を克服  
する力

そして…

【底力】

24

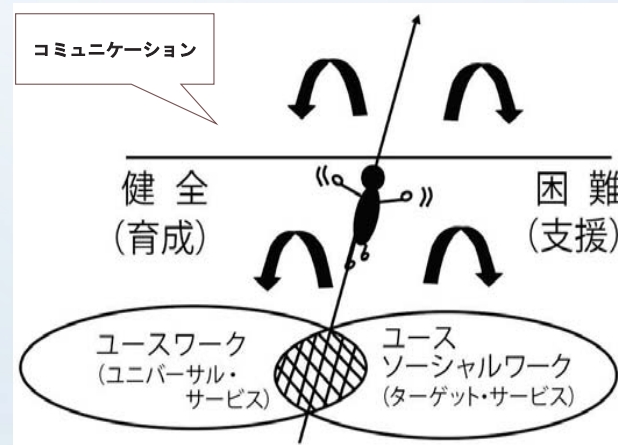
## まとめ（課題の抽出）



## まとめ（大切にしたい思い・考え…）

★将来について思い悩む青少年に伴走し寄り添いながら、より揺れ動かす。

想定できない困難や課題



多感な時期を過ごす、青少年にとって、困難なこと人生について思い悩み考え、様々に揺れ動いています。

図の通り、人生という、綱を渡りながら揺れることに例えると、手でバランスを取り進む青少年がいれば、棒を持ちバランスを取り進む青少年もいると思います。

その様々なシーンに、スタッフ（ユースワーカー）が寄り添いながら、青少年を揺さぶることができるのか、そしてその中で、いかに様々なことに挑戦できるのかを応援し続けたいと思います。